



子どもの読書活動推進計画実施は

教育長
乳幼児から高校まで
切れ目のない読書支援





小城市道路網整備計画の進捗状況は

市長
総合的に判断しながら
整備を進めている



質問 共働き世帯の増加やスマートフォンの普及など、子どもを取り巻く環境は急速に変化をしている中、子どもの読書活動推進計画の具体的な取り組みは。

答弁 教育部長
乳幼児から高校生まで切れ目のない読書環境づくりと広い教養の育成を基本目標にしている。学校、幼稚園、保育園等においては朝読書活動や読み聞かせ活動の充実を図りながら、家庭、地域、学校等がそれぞれ連携を行い、読書環境の充実に努めていく。

質問 学年が上がることにより、読書離れや図書館利用が減少している。中高生が足を運びたくなくなるような図書館づくりをどう進めていくか。

答弁 教育部長
雰囲気づくりや、アンケートの要望にできる限り対応していく。

外国語の絵本や読書バリアフリー対応の本など幅広いジャンルの蔵書の充実にも取り組んでいく。

質問 砥川小図書館の空調改修工事の進捗状況は。

答弁 教育部長
工事完了は夏休み前の7月中を予定している。

質問 読み聞かせ団体会員減少への支援は。

答弁 教育部長
市と共同で開催したイベントの様子をSNS等で紹介するなどして活動に興味がある方の加入につなげていきたい。



▲約3千冊の本CDなどを積んだ自動車図書館

質問 令和3年からの道路整備計画書に、安全な歩行が確保されていない箇所が存在すると書かれてあり、その後対応は。(浪松江里山線含む)

答弁 建設部長
市道の交通安全施設については、重大な事故が起こる可能性がある施設から優先的に設置を行っている状況である。小城市内全体で安全性や緊急性を総合的に判断して優先順位を見極めながら整備していきたいと考えている。

質問 黒原幹線は、15年前に河川改修を目的に農地が買収されたが、まだ工事がなされていない。地元説明会も含めて今後の対応は。

答弁 建設部長
工事自体は、県の工事になる。本年度堤防の補強工事を予定されていると聞いている。市としては、県の方に地元説明会等の開催の要望を今後していきたい。



▲浪松江里山線



▲黒原幹線



公有財産の現状と課題は

市長

単純に更新していくこと
にはならない

なかしま まさき
中島 正樹



質問 小城市の行政財産及び普通財産に対する現状の課題に対しての今後の方針は。

答弁 市長

公共施設が建築から時間が過ぎ、老朽化も進んでいるなか、当時と環境が変わっている。現状を前提として、単純に更新していくことにはならないと考えている。それぞれの施設の設置目的、機能を時代に合った形で、今後どのように維持し充実させ、有効に活用していくのか、将来を見据えゼロから考えて議論を深めていく。

公共施設のうち学校施設の今後の在り方は、初めに結論ありきではなく、これから子どもたちの教育環境という観点から、どういう状況が望ましいか教育委員会で議論をしてほしいとお願いしている。

質問 牛津川遊水地の代替地は、市で代替地の準備もしたので最後まで責任を持っていくべきでは。

答弁 市長

結果としてすべてが集団移転はされないことになり、余剰が出ることは事実。この分をどういうふうに売っていくかは大きな課題。責任を持ってしっかりと取り組んでいく。



▲牛津川遊水地の代替地



小城市の災害対策は

市長

安全・安心の地域作りに
取り組む

なか お かつよし
中尾 勝吉



質問 小城市の災害対策として小城市民をどのような対策で災害から守るのか。

答弁 市長

河川や土砂災害などに関するハード整備を着実に進めていく。災害が発生しそうな時は、命を守るための早めの避難が大切。大雨警報等が出る前に、その警報を待たずに明るいうちに避難所を開設し、避難していただけるようにしている。

質問 農業用の用排水路について、豪雨の時に氾濫するような水路は誰が維持管理をするのか。

答弁 産業部長

現存する水路は、地域の排水機能と併せて、治水機能を担う重要な施設であり、関係者の皆様の理解と協力のもとに、適切な維持管理をお願いし、これまでの経緯、役割分担を踏まえ適切に持続できるよう努める。

質問 全国で山火事が広範囲で起こっている。初期消火など大きな災害にならないような事前の対策は。

答弁 産業部長

山間部の皆さんと協力して、山の巡回をしている。林道等については、異常があれば、その都度補修など対応している。

質問 林野火災警報が発令された場合、市民への広報や注意喚起のお知らせは。

答弁 総務部長

林野火災警報が発令された場合は、防災無線による放送でできる限りの音量によって広く周知していく。



▲荒れていく林道



**病院行きの直行便は
できないのか**

市長
利用を増やしていく努力
はしっかり取り組む





**自転車の違反16歳
未満について**

教育長
交通安全教育の充実を
図っていく



質問 昨年7月開院した公立佐賀中央病院行きについて、前回は質問したが広域バスは右回り左回りで小城市内を一巡して多久市の公立佐賀中央病院へ循環していく。そうではなく直通のマイクロバスの運行はできないか。

公立佐賀中央病院には小城市も何億円も負担している。今後も存続していくためには、小城市は患者を確保するため、高齢者や障がい者等の交通弱者の移動手段の確保が必要。直行便の運行はできないか。

答弁 建設部長

公立佐賀中央病院と小城市を結ぶ直行便は、今までも議会で伺っている。

本市のコミュニティバスは、民間路線を一定補完しながら交通空白地帯を解消することを基本としており、路線バスと市バスの両方の経路を重ねて設定することはできない。

質問 民間の路線バスは赤字で沿線自治体が補助金を出しており、小城市も昭和バス等補助している。小城市は公立病院の患者を確保すべきだ。

答弁 建設部長

利用者を増やす努力は取り組んでいきたい。



▲市内を一巡する広域バス。病院直行便を望む

質問 2026年の道路交通法改正に伴い自転車の交通違反16歳未満について、学校教育としての考えは。

答弁 教育長

交通安全教育は非常に重要だと思っている。自転車は車両であるという子どもたちの意識も含めて、交通ルールを守る責任が児童・生徒にはあるので、教育啓発をしなければならない。

質問 通学路についての見直しの必要性があると思うが考えは。

答弁 学校教育担当部長

接触事案、道路交通法改正、歩道の狭さや通行の混雑などの現状を踏まえて、改めて通学路の在り方について確認、検討する必要がある。

防災対策について

質問 水門は洪水防止や管理に必要なものであるが、施設の老朽化、人員不足、操作員の高齢化と、大雨の中に迅速な対応をしなければならない課題があると思うが考えは。

答弁 産業部長

農家戸数が減少していくと、現在の管理体制を維持することが、非常に困難になることが懸念される。加えて、大雨時や夜間での水門操作は危険を伴う作業で、従事者の負担も大きい状況と把握している。

質問 遠隔操作等の必要性は。

答弁 産業部長

安全確保、負担軽減の観点から重要と認識している。



▲大雨時に迅速な排水対応が必要な重要な水門



教育・文化施設の課題 と今後は

教育長

維持・補修は、しっかり
検討し判断していく



にし まさひろ
西 正博

質問 教育・文化施設の、水銀灯や蛍光灯の使用状況や、アスベストを含む資材や材料を使用した施設の把握はしているのか。今後、更新について、市はどのように進めていく考えなのか。また、財源確保策として、鹿児島県霧島市では、公共施設の照明をLEDに更新設置する財源に、初期費用を抑えるためにリース方式を採用したとのことだ。市の人的負担やコストも軽減されるとの理由で採用されたということだ。市の考えは。

答弁 教育部長

水銀灯は、小城図書館、桜城館で一部残っている。また、蛍光管は2027年末に製造廃止になるので、学校等長寿命化等の大規模改修工事と併せて整備を行う。それ以外は、財源確保に努め、順次LED化を進めていく。アスベスト対策については、平成17年以降に市内の小・中学校、幼稚園、公民館等に対して、調査及び一部除去工事を行っている。今後、大規模改修工事や建築物の解体等の際に事前調査を行い、対象物があつたときは、その施工時に併せて除去等の対策を行っていく。財源の点でのリース方式については、有利であるかなどを総合的に判断する。



▲照明器具の更新が予定されている三日月小学校体育館



有害鳥獣対策について

市長

近隣の市町と連携し
効果的な対策を検討



いわたつ たかし
岩松 隆

質問 国・県の報奨金制度は成獣と幼獣^{かいら}で手当の差や狩猟期間中は手当が出ないなど実態と乖離している。罠にかかった幼獣が放獣される盲点を防ぐため、国・県へ制度の見直しを積極的に働きかけるべきと考えるが市の見解は。

答弁 産業部長

イノシシ成獣は1万7千円、幼獣は1万1千円、大きな差ではないとの認識。ただ、国の補助分については差が大きい実態もある。今後、実態を踏まえ、国・県への要望はきちんと行っていきたい。

質問 現在の2市連携をさらに他自治体へ広げ、網羅的な広域連携体制へと発展していく考えはあるか。

答弁 産業部長

佐賀市や江北町などを含めたさらなる広域化は、今後、他市町の協議会とも情報共有を図りながら、連携のあり方を研究していきたい。



▲イノシシ捕獲用の箱罠

大地町交差点の改良について

質問 三日月町大地町交差点の改良について、現在の危険な交通状況及び地元への負担や強い要望をどのように受け止めているか。

答弁 建設課長

2年前の現地立会いの結果、市道からの交通量が少なく、幅員も狭い等の理由から半感应式への変更は難しいが、地元の皆さんの声を伝えながら、警察や関係機関とも協議を進めていきたい。



農業行政と要配慮者の避難訓練

市長
農業の様々な問題に対し
しっかり取り組む



ゼロカーボンシティの 取り組み方針

市長
実現にむけた取り組みを
推進する考えである



質問 施政方針で述べられた農業は基幹産業であるとの認識について伺いたい。

答弁 市長

農業は小城市の地域の様々な生活、暮らしのベースとして非常に重要な位置にある。また、多面的な機能があり、災害や様々な生活の場に基礎として存在している。

農業は農政という国政との連携、県や団体ともしっかり連携していくことが重要であり、積極的に取り組むべきこと。近年の担い手、生産施設、農業関連施設の老朽化などの問題もある。今後どのようにして維持発展させていくかということにしっかり取り組んでいきたい。

質問 障がい者や一人で動くことができない高齢者など自ら動くことができない方々の避難訓練の状況について。

答弁 福祉部長

市長の指示を受け、医療的ケア児の避難訓練の準備を進めている。医療的ケア児の方は人工呼吸器などの医療的支援が必要であり、災害時においても迅速かつ安全な避難支援が必要である。保護者、県などの医療機関と連携し、今年度中に実施する。高齢者などの避難訓練は計画していないが、今後検討したい。



▲要配慮者の避難訓練のイメージ図

質問 小城市においても国、県との整合性を図り目標年度を設定されている。ゼロカーボンシティの実現に向けた市長・教育長の考え方と取り組み方針とは。

答弁 市長

推進にあたり、小城市も当然公金を使っている。単にCO₂の排出を削減するだけでなく、直接的な効果、小城市にとってコストの削減、防災体制の強化、生産性の向上、費用対効果、他の施策との関係も考えながら進めていくことが大切と考えている。

答弁 教育長

教育委員会としては、たくさんの施設の中に児童、生徒や教職員がおり、市の職員ばかりではなくて、環境教育、この意識化は重要なことで、これからの社会を担う子どもたちにとって、どうして省エネ行動を取っていくのか、環境を大切にしていくのか、こうした教育啓発も大事なことである。教育分野でこの点について意識化をしながら行動につなげる取り組みを進めていけたらと考えている。



▲ゼロカーボンシティを目指す小城市



まつお よしゆき
松尾 義幸

移転先分譲地の 売れ残りの処分は

建設部長

民間事業者を活用する
方法も視野に検討中



質問 牛津川遊水地事業に伴う集団移転先の2つの分譲地について

①坂井地区は43区画、小隈地区は42区画造成されたが、それぞれ何区画処分できたか。

答弁 建設部長

①坂井地区で12区画、小隈地区で7区画の売買契約が完了。

質問 ②2つの分譲地の土地の取得費及び造成工事費、設計費など合わせて総額幾らか。

答弁 建設部長

②造成地の土地の取得費と造成工事費、測量設計費、電柱などの移転補償など総額で10億2,277万円。

質問 ③集団移転は、いつの時期に終了が見込まれるか。残った分譲地の一般公募はどうするか。

答弁 建設部長

③今年度の売買契約の申し込みが3名からあり、3名が完了すれば移転の分は完了する。宅地の販売については、当初、市が主導して販売する計画だった。現在内部協議を進めている中でやはり専門的な知識やスキルを持った民間業者の活用方法も視野に入れ検討を行っている。



▲空き地が目立つ移転先分譲地



まえだ ひろき
前田 博己

駅舎のシロアリ被害は 市も反省すべき

建設部長

最終的にこのようになった
ことは反省している



質問 小城駅駅舎にシロアリが発見されてから、今回の駅舎利用停止に至るまで、一つひとつに時間がかかり過ぎている。

その間、利用者、市民を危険にさらし続けたということに対し市は反省すべきではないか。

平成26年にJRから駅舎の譲渡を受けたとき、平成27年に佐賀県遺産に認定されたとき、平成28年に国登録有形文化財に登録されたとき、何度もシロアリの駆除、点検、防蟻処理を実施するタイミングはあった。

そのことに対する市の見解は。

答弁 建設部長

おっしゃる通り、そのタイミングはいくらかあった。そこで対策を講じることができず、最終的にこういう結果になったことについては反省をしている。



▲JR小城駅舎



▲JR小城駅舎シロアリ被害状況

所管事務調査

※委員会が自主的に所管する事務について行う調査のことです。

6月8日に総務常任委員会、文教厚生常任委員会、10日に産業建設常任委員会が補正予算に関する所管事務調査を行った。

総務常任委員会



▲牛津町拠点格納庫及び水防倉庫整備予定地

文教厚生常任委員会



▲照明をLED化する三日月小学校体育館

産業建設常任委員会



▲故障が判明した三日月東部排水機場
(現在は修理完了)



いずみ まりえ
泉 万里江

道路における交通安全の確保は

市長

他とも連携し対策に取り組んでいきたい



質問 通学路での児童・生徒の交通安全対策は。

答弁 教育長

子どもたちへの安全教育を進めながら、関係機関や地域と連携し危険箇所の把握や安全対策に努め、安全・安心に登下校できる環境づくりに取り組む。

質問 市道友田八枝線は歩道も外側線等も無い区間があり、登下校時は通勤通学と重なり、歩行者にとって車と接触するのではないかと危険を感じることが多い。この道路を安全に子どもたちなど市民が歩けるような対策は考えているのか。

答弁 建設部長

通学路の合同点検等で危険箇所であると把握している。今後、交通安全施設工事で外側線等の設置を計画し、本年度予算に計上している。

質問 外側線だけではなく車幅が狭くなるようなところは、道路に色をつけるなど目の錯覚等で速度抑制につながるような工夫はできないか？

答弁 建設部長

予算の都合もあるが、速度抑制対策の路面標示等、今年度検討していきたい。

その他の質問

○自転車利用に関する交通ルールの厳格化を踏まえ、児童生徒への交通安全教育はどのように取り組んでいるのか

○市民への自転車の交通安全についての取り組みは



▲歩道も外側線もない通学路